

# —講演会「原発を考えよう」のご案内—

日時 11月9日(水)PM6:30~ 会場 大阪府商工会館7階(地下鉄「本町」17番出口直結)

主催 大阪損保革新懇

参加協力費 1000円

## 講演『“原発ゼロ”社会の実現めざして』

…安齋育郎さん (安齋科学・平和事務所所長、立命館大学名誉教授・立命館大学国際平和ミュージアム名誉館長)

安齋さんは、東京大学工学部原子力工学科の第1期生、草分けです。原子力工学科は、日本の原子力発電を推進するための人材養成を目的とした学科でした。その中で安齋さんは「原子力の安全が破綻したらどうなるか」ということに関心を持ち、国の原子力政策を批判する立場になりました。第1期生から「反原発」の人材が出るなど許されないことで、安齋さんは徹底した差別に遭いました。17年間教育業務からは一切外されて、研究費も制限され、助手のままでした。人事上の差別に加えて、講演などには安齋番という人が尾行をし、全て録音をして、主任教授に届ける係まで決まっていたとのこと。電力会社から出向してきた人から「私は安齋さんが原発で次に何をやるようとしているか、偵察する係でした」と告白されたこともあり、「原子力村」から「村八分」にあった安齋さん、今その発言が注目されています。

安齋さんには、①福島原発事故の現状と収束への道のり ②放射能被曝とは ③「原発安全神話」—原子力村の表と裏— ④これからのエネルギー政策 などについて講演いただきます。

## 報告『原発リスクと損保産業の社会的役割』

…松浦章さん (大阪損保革新懇世話人・兵庫県立大学大学院博士後期課程)

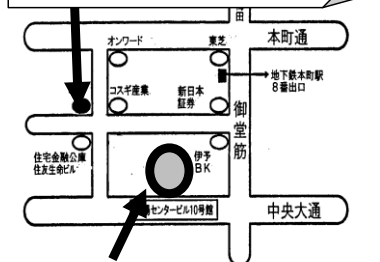
損保業界が安全神話に安易に流されないのは、リスクを的確に判断するという産業の性格からすればある意味当然のことといえます。現実に損保業界は、現在の原子力損害賠償制度の枠組みに原子力損害賠償保険の引き受けというかたちで組み込まれながらも、保険金額1200億円と支払いの上限を設ける、地震、噴火、津波や正常運転による事故を免責とするなど、その高いリスクに見合ったきびしい条件を設定することでかろうじて保険の引き受けを行ってきました。これはこれでひとつの見識と言えるかもしれません。しかし損保業界が、社会に存在する危険を数値化し、それを社会に警告するという産業の社会的責任を果たそうとすれば、もっと根本的で積極的な役割が求められているのではないのでしょうか。

松浦さんには、①原発被害と原子力損害賠償制度 ②原発と損害保険 ③原発リスクと損保の今日的役割 について講演していただきます。

この講演会は大阪損保革新懇第14回総会の記念講演として開催します。

多くの方の参加をよびかけます。

終了後、懇親交流会を開催します。  
和 dining 木温 (こはる)  
参加費：男性 3500円、女性 3000円



大阪府商工会館  
7階 第一講堂  
地下鉄「本町」17番出口直結

参加協力費 1000円